

様 シックデイの糖尿病薬の調整について

糖尿病で治療中に発熱、下痢、嘔吐、食欲不振などでいつも通り食事ができない時を『シックデイ』といいます。このような状態ではいつも通りに薬を飲んだり、インスリンを注射すると低血糖が起こることがあるので下記のように調整してください。また、『シックデイ』の時は飲み薬やインスリンの効きが悪くなり高血糖にもなりやすいので、改善がない場合は早めに受診してください。なお、水分や食事がまったくとれない、強いだるさが続いて動けない、呼びかけへの反応が悪い場合は、様子を見ることなく、速やかに医療機関を受診してください。

◆ 飲み薬

[] ⇒ 中止してください

◆ インスリン

① _____ は いつも通り・ [] 単位 注射してください

② _____ は食直後に食べた量で調整してください

食事（主に主食）が半分以上の時 ⇒ いつもの量

朝 [] 昼 [] 夕 []

食事（主に主食）が半分未満の時 ⇒ 半分の量

朝 [] 昼 [] 夕 []

（できれば量に併せて調節。7割摂取なら7割のインスリン、2割なら2割のインスリン）

◆ GLP-1 受容体作動薬 GIP/GLP-1 受容体作動薬

_____ は中止してください

◆ 注意していただきたいことなど

[]

患者さんにお渡しいただくにあたって（医療関係者様）

シックデイで食事が通常通り摂取できない時の半日～1日の調整目安です。

日常の診療時に糖尿病薬の調整につきご指導お願いいたします。

また、実際にシックデイの状態になるとインスリン抵抗性が増し高血糖にもなりやすいので、受診時の血糖値、自己血糖測定値などを参考に調整をお願いします。

また、重症低血糖で搬送される例は認知症を合併している症例も多くみられます。

認知症が疑われる場合にはご家族の方へのご指導もよろしくお願いいたします。

なお、SGLT2 阻害薬を服用中の場合は、中止後もしばらく尿糖が出るため、十分な水分と糖質を摂るよう指導してください。

水分や食事がまったくとれない、意識障害、強い倦怠感がある場合は速やかに受診させてください。

記入方法

◆飲み薬

[]の中に使用中の経口血糖降下薬をご記入ください

基本的にはすべての糖尿病薬ですが、DPP-4 阻害薬単独なら継続も可能です。

◆インスリン

① には使用中の持効型インスリンの名前をご記入ください

同量または患者さんの病態に合わせて5～8割のインスリン量

② には使用中の超速効型、混合型インスリンの名前をご記入ください。

□の中には指示単位数をご記入ください

◆注意していただきたいことなど

ご指示があればご記入ください

本資料は一般的な目安です。患者さんの病態や使用薬剤に応じて適宜調整してください。